

2017年 春夏号

尚絅大学 尚絅大学短期大学部
オープンキャンパス
7/22(土)・23(日)、8/5(土)
11/19(日)
受付/9:00～
開始/10:00～

内容/●学部・学科説明 ●キャンパスツアー
●模擬授業 ●個別相談
●学食体験 (ランチ無料) など



九品寺 キャンパス	・生活科学部栄養学科 ・総合生活学科	・食物栄養学科
武蔵ヶ丘 キャンパス	・現代文化学部文化コミュニケーション学科 ・幼児教育学科	

オープンキャンパス & オープンスクール 参加特典 参加者全員にオリジナルグッズをプレゼント!

〈詳細についてのお問合せ先〉
尚絅大学／尚絅大学短期大学部入試センター
☎ 096-273-6300

後
塞

キャンパスには補修工事の槌音が響き、シートが被さる校舎も見られる。早いもので、あの恐怖の一夜、いや二夜からすでに一年以上が過ぎている。ことわざに「災いは忘れた頃にやって来る」という。当地を襲った未曾有の大地震、その後の度重なる余震、果たして忘れていないでも対処できたか、疑問は残る。「備えあれば憂いなし」とも言う。今回の厄災を総括し、改めてリスクへの対処を考えることが必要であろう。少なくとも、この学び舎にいる全員が「災い転じて福となす」ことを目指して。

(H.K.)

○皆様のご意見・ご感想をお寄せください。

編集・発行/尚絅学園 編集スタッフ/黒瀬英夫、松野多恵子、福島由香、小松野愛、木庭敦子、古澤千鶴、木村杏莉
〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78 TEL.096-364-0116 FAX.096-363-6520 メールアドレス koho@shokei-gakuen.ac.jp

学校法人
尚絅学園
SHOKEI

熊本市中央区九品寺2-6-78 TEL.096-364-0116 尚絅学園 検索

尚絅中学校 尚絅高等学校
オープンスクール

7/8(土)、8/5(土)

受付/9:00～ 開始/10:00～ **当日参加可能**

内容/●学校紹介(ビデオ上映)
●授業体験 ●部活動体験・見学 など



参加者全員に
**尚絅バーガー&
ジュースも
ご用意しております!**



尚絅学園広報誌
Vol. 26

石楚
ISHIZUE



短期大学部幼児教育学科(武蔵ヶ丘キャンパス)

Vol.26 CONTENTS

特集	P1-P3
イベントリポート、新任教職員紹介	P4-P6
行動規範の制定	P7
寄附者芳名録	P8
平成28年度決算と事業報告の概要	P9-P11
平成29年度事業計画(概要)	P12
インフォメーション	P13-P15

尚絅学園
SHOKEI

2018年4月、 尚絅大学の新しい歴史が始まります。 文化言語学部文化言語学科から、 現代文化学部文化コミュニケーション学科へ。

高度な日本語運用力及び多様な文化と社会に関する知識を身に付けた上で、高度情報化とグローバル化が進む日本社会に貢献できる人材を育成します。

興味のある分野と希望する進路・学びに応じて、情報メディア文化、観光文化、日本・東アジア社会文化、文芸文化の4つの領域から2つを組み合わせて、「文化」に関する専門的な能力を育成します。

1年次の教養教育科目や専門導入科目での学びを経て、2年次後期に「情報メディア文化」「観光文化」「日本・東アジア社会文化」「文芸文化」の中から主専攻の領域と副専攻の領域を一つずつ選択します。

情報メディア文化では、現代日本のサブカルチャーに加えてインターネットカルチャーを学びます。観光文化領域では、「コンテンツ・ツーリズム」や「フード・ツーリズム」を含む様々な観光行動を分析します。日本・東アジア社会文化領域では、日本理解をベースに日本の社会・文化及び東アジア諸国との社会・文化を学びます。そして、文芸文化領域では、日本の伝統文化に加え、古典から近現代までの日本文学を学びます。

チームワークを活かして、
他者と協働的に問題を解決する能力を育成します。

専門領域とバランスを取りつつ、課題解決型学修や社会調査といった社会に参加しながら学ぶ科目を通じて、他者とコミュニケーションを取りながら問題を解決するジェネリックスキルを育成し、卒業後の進路で必要となる能力を身に付けます。

すべての学びの基礎となる日本語運用力と
実践的な外国語運用力を育成します。

日本語の「読む・書く・話す・聞く」という技能を徹底的に育成し、充実した留学制度のもと、実践的な英語・韓国語・中国語の運用能力を育成します。

設置概要

- 名称／現代文化学部 文化コミュニケーション学科
- 修業年限／4年
- 開設時期／2018(平成30)年4月
- 入学定員／75名
- 取容定員／300名(75名×4学年)
- 取得学位／学士(文学)
- 設置場所／尚絅大学 武蔵ヶ丘キャンパス
(熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北2丁目8-1)

学びのステップ

Learning step

1・4年次

●教養教育科目

大学での学修の導入となる「基礎セミナー」、コミュニケーションを高める「日本語表現」「外国語科目」、文化や社会理解を深める「日本伝統文化」「女性と社会」などの科目を通して、幅広い教養を身に付けます。

2・3・4年次

●専門教育科目

4つの領域から学びたい領域を選択

情報メディア文化 領域

情報メディア文化領域は、マンガ、アニメーションといった現代日本の代表的なサブカルチャーに加えて、Webメディアの文化や技術を学び、身近な「文化」から社会を分析する力を育成する専門領域です。本領域には、身近な「文化」を深く学ぶために、様々な人に出会い、自分で問題を考える科目を用意しています。本領域で学んだ分析力とコミュニケーション力を活かして、社会で活躍する土台としてください。

KEYWORD

- Webデザイン
- メディア
- サブカルチャー



観光文化 領域

観光文化領域は、観光実務、地域観光、国際観光といった観光業で必要とされる実務的側面を学びつつ、「観光」という人間に特有の営みを「文化」という側面から考える能力を育成する専門領域です。本領域には、「コンテンツ・ツーリズム」や「フード・ツーリズム」といった新たな観光行動を文化社会学的に分析する科目に加えて、観光ビジネスの現場で役立つ実践力を育成する科目を用意しています。本領域で学んだ実践力を活かして、地域の観光業に貢献してください。

KEYWORD

- 観光文化
- インバウンド
- 観光マネジメント

日本・東アジア社会文化 領域

日本・東アジア社会文化領域は、日本理解をベースに東アジアの社会と文化について広く学修し、グローバル化及びグローカル化に対応できる人材を育成する専門領域です。本領域では、特に中国、韓国、台湾の社会と文化について、例えば「韓流」や「日中・日台関係」などを念頭に置きながら、理解を深めていく科目を用意しています。また、東南アジアに関する科目も用意しています。今後九州・熊本で必要とされる知識を身に付け、日本と世界の懸け橋になってください。

KEYWORD

- 日本伝統文化
- 東アジア
- 異文化理解



文芸文化 領域

文芸文化領域は、古典から現代文学までの日本文学に関する基本的な知識を核として学び、書道・華道・茶道や能楽などの日本伝統文化も含めた日本の文芸を、幅広く理解する専門領域です。創作・鑑賞を含め、様々な作品に出会い、日本人の心の移り変わりを理解するとともに、文学作品等を鏡として自分の心を探ってください。文芸文化領域は、自分発見の場でもあるのです。

KEYWORD

- 日本近現代文学
- 日本古典文学
- 言語芸術

メインの選択領域にもう一つの領域を組み合わせて学び、目標とする進路に進んでいきます。

例えば

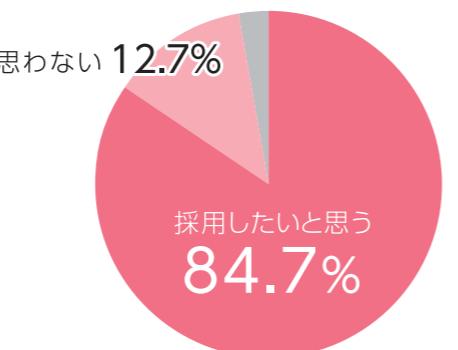
観光ビジネスをめざす
「観光文化」を選択し、
他領域で興味のある科目を選択。



100企業・団体(有効回答118企業・団体)がこの学科の学生を「採用したい」と回答。

「現代文化学部 文化コミュニケーション学科」の就職先として想定される企業・団体の採用担当者へのアンケート調査で、全体の約85%となる100企業・団体から「採用したい」と回答いただきました。また、同学科の社会的必要性に関しても、96.6%(114企業・団体)が「必要だと思う」と回答いただいていることから、多くの企業・団体がこれから社会に必要な学部であると捉えていることが伺えます。

※卒業後の就職先として想定される企業300社へのアンケート調査集計。



（参考）文化言語学部の就職状況

就職率

100%

平成29年5月1日現在
平成29年3月卒業生
就職希望者に占める就職者の割合

近年の就職先

製造業	タカラスタンダード(株)／(株)熊本菓房／瑞鷹(株)／金剛(株)
情報通信業	(株)熊本日日新聞社／(株)熊本放送／(株)サンマーク／日本通信機器(株)
運輸・郵便業	日本郵便(株)／佐川急便(株)／(株)ジェイ・エス・エス
卸売・小売業	(株)古莊本店／(株)メガネの大宝堂／(株)ユニクロ／(株)えがお／(株)ペイブルック／(株)スズキ自販熊本／マックスバリュ九州(株)
宿泊業	(株)東横イン／(株)ユニマットプレシャス
金融・保険業	(株)熊本銀行／(株)肥後銀行／第一生命保険(株)／明治安田生命保険(相)／日本郵便(株)[日本郵政グループ]
教育・学習支援業	熊本県立図書館／熊本市立図書館／八代市立図書館／おおづ図書館／益城町図書館／丸善雄松堂(株)／熊本YMCA(臨時採用含む)
医療・福祉業	熊本機能病院／菊陽学園
複合サービス業	熊本市農業協同組合／熊本宇城農業協同組合／上益城農業協同組合／鹿本農業協同組合／阿蘇農業協同組合／本渡五和農業協同組合
公務	産山村役場／熊本市役所／日本年金機構

取得可能な資格

目標とする資格

- | | | | |
|---------------|----------------|--------------|--------------|
| ●司書 | ●TOEIC®・600点以上 | ●日商PC検定試験 | ●文書デザイン検定試験 |
| ●社会調査士 | ●中国語検定2級以上 | (文書作成・データ活用) | ●ビジネス能力検定 |
| ●プレゼンテーション実務士 | ●ハングル能力検定2級以上 | ●ITパスポート | ●旅行業務取扱管理者試験 |
| ●観光ビジネス実務士 | ●簿記検定 | ●日本語ワープロ検定試験 | ●サービス接遇検定 など |
| ●日本語教師(大学認定) | ●通訳案内士 | ●情報処理技能検定試験 | |

尚絅食育研究センター

大麦プロジェクト

大麦プロジェクトは、大麦及び大麦製品の周知と大麦を用いた新商品（レシピ）を開発する目的で西田精麦株式会社と尚絅食育研究センターが平成28年6月から取組みを開始しました。このプロジェクトに参加した学生は生活科学部28名、短期大学部食物栄養学科4名で、教員とともに、レシピ開発に当たりました。まず大麦や大麦粉の栄養学的な特徴についての勉強会を実施し、その後レシピ開発に向けて検討を重ね、若い世代への大麦周知を目指しテーマを「スイーツ」としました。5つのグループに分かれ、教員の指導を受けながら、大麦粉の機能性・調理性を考慮したスイーツ開発に当たりました。9月にアイデア発表会、10月には西田精麦(株)担当者の参加を得て試作品検討会を実施、11月に関係者の試食会を実施しプロジェクト参加学生と食育研究センター運営委員教職員の意見をもとに、レシピ改良を行いました。1月に学内試食会を開催し、尚絅高校の生徒、九品寺キャンパスの学生・教職員に大麦や大麦粉についての啓蒙活動を行うとともに、学生が開発したスイーツを実際に食べてもらうことで、大麦を身近に感じてもらうことができたようです。平成29年3月4日には、パティシエ・食品会社管理栄養士・食品流通の専門家の方々を学外よりお招きし、学生のアイデアが詰まったスイーツをご披露することができました。参加した学生には、今回の試みから学んだ経験を今後に活かしてほしいと思います。



開発会議風景



平成29年3月4日 試食会の様子

尚絅地域連携推進センター

尚絅大学・尚絅大学短期大学部と熊本市との連携協力に関する包括協定の締結



尚絅大学・尚絅大学短期大学部と熊本市は平成29年3月23日、地域活性化と市民サービスの向上を目指して、「連携協力に関する包括協定」を締結しました。締結式では大西一史市長、森正人学長が出席し、協定書にサインをしました。今回は、食育や幼児教育の研究機関活動、管理栄養士や保育士、幼稚園教諭などの育成といった本学の特色を中心に、「地域防災と安心・安全」、「高齢者・障がい者支援」、「子育て支援」、「食と健康」、「人材育成やまちづくり・地域づくり」、「国際交流」の6つの分野において協働事業に取り組んでまいります。今回の協定について、本学は研究、教育の蓄積を社会に生かす機会としてとらえ、課題を地域と共有しながら、さらに、研究を深めてまいります。

尚絅子育て研究センター

8月6日に

第17回公開シンポジウムを開催します！

尚絅子育て研究センターでは、内外の研究者、保育実践者とともに保育や子育てに関する研究をすすめています。平成29年3月19日に開催した「新任保育者の成長に向けた環境づくり」講演会では、多くの保育関係者にご参加いただき、新任保育者の育成について話し合うことができました。また、今年度で3年目を迎える「乳児保育研究会」では、毎月定例で保育実践をもとに共同研究を行っています。その成果を踏まえて、8月6日(日)に開催する第17回公開シンポジウムでは、「大切にしたい0,1,2歳児の保育—指針の改定を踏まえて—』というテーマを企画しています。ぜひ、お誘いあわせの上、ご参加下さい。今後の研究会、シンポジウム等の予定は、ホームページでもご案内いたします。(問い合わせ先:kosodate@shokei-gakuen.ac.jp)



第1回(4月26日)乳児保育研究会の様子



「新任保育者の成長に向けた環境づくり」講演会・セッション(3月19日開催)

尚絅ボランティア支援センター

「美容と健康で復興応援」のイベントにボランティア協力

5月27, 28日の2日間、ゆめタウン光の森で行われた大手化粧品メーカー「資生堂」が主催する「くまもと復興応援イベント」に、本学短期大学部総合生活学科の学生約20名がボランティアスタッフとして参加しました。当日は、会場での受付やイベント募集チラシの配布等の協力活動を行いました。また、資生堂スタッフとともに、来場者への対応をはじめ、美容と健康をテーマにしたイベントのサポートーとしても復興応援活動に協力することができました。参加した学生たちにとって、このイベント協力活動は、企業の社会貢献活動に対する理解を深めるための貴重な体験となりました。



尚絅大学 尚絅大学短期大学部

平成29年度 尚絅大学・尚絅大学短期大学部 合同入学式が挙行されました

平成29年4月5日(水)、尚絅アリーナ(九品寺キャンパス)において、尚絅大学・尚絅大学短期大学部合同入学式が挙行されました。今年度は、389名(大学生132名、短期大学部生257名)の新入生を迎えることとなりました。式では、入学生を代表して短期大学部幼児教育学科の鶴田カンナさんが宣誓を行い、また、来賓代表として後援会会长の堀尾慎彌様から心温まる祝辞をいただきました。



尚絅中学校 尚絅高等学校

和装礼法部 全日本きもの装いコンテスト 世界大会で3連覇

平成29年4月9日(日)東京メルパルクホールにて、2017年日本の心と美の祭典全日本きもの装いコンテスト世界大会(全日本きものコンサルタント協会主催)が開催されました。地区大会を勝ち抜いた約200人が出場し、3人1組の学校対抗の部で高校3年生太田黒葉さん、杉本沙和香さん、谷上りささんが優勝、振袖の部で全7部門の準女王に高校3年生國岡陽美さんが輝きました。短時間で鏡を見ずに着物をどれだけ美しく着られるか、歩き方やお辞儀の仕方およびスピーチなどが審査され、高校生とは思えないほど堂々とした立ち居振る舞いを披露しました。また学校対抗の部で3年連続優勝と栄冠を受け継ぐこともできました。5月16日(火)に熊本県の蒲島知事を表敬訪問し、受賞の報告をいたしました。知事から温かい励ましのお言葉を頂き、テレビや新聞など多くのメディアに取り上げられました。出場者のメンバーは「チームワークの良さが優勝につながった」「卒業した3年生の先輩方に支えていただき、これからは後輩に経験を受け継ぎたい」とコメントしていました。



FEE Japanのグリーンフラッグ認証

平成29年3月30日、一貫コースのエコ委員会を中心に行なったエコスクール活動がグリーンフラッグ認証を受けました。エコスクール活動は、生徒たちが、身のまわりの課題を見つけ、その解決に主体的に取り組む活動です。平成28年度は、一貫コースで学んでいる環境学習を発展させ、「グリーンカーテンの育成、各クラスのベランダ植物栽培(夏スミレと冬のパンジー)コンクール、熊本県産食材を使ったお弁当コンテストの全校実施など」私たちにできる二酸化炭素削減活動に取り組みました。また、5月の全校集会、尚絅コンサート、2学期終業式に、エコ委員会活動報告を通して、環境活動の必要性を全校に呼びかけました。6月9日に、東京からFEE Japanの代表をお迎えして認証式が行われました。



FEE Japan…FEE国際本部より承認を受け、FEEの環境教育プログラムを日本国内において実施(FEEとは世界最大規模の環境NPO/NGOのひとつ)

尚絅大学短期大学部附属こども園

美味しい給食を食べています

こども園では昨年から自園調理による給食提供をしています。準備から後片付けまでの流れがスムーズに行く様に、何度も調整しながら進めてきました。給食が食べられず苦戦している子どもも多かったものの、徐々に慣れ苦手な野菜やメニューも食べられるようになりました。1歳児や2歳児のクラスの食事の様子を覗いてみると、酢の物や、煮魚等をよく食べています。子どもたちは和食が大好きなようです。酢の物に何が入っているか尋ねると「にんじん・キャベツ・つるつる(春雨のこと)」と答えが返ってきて何を食べているか理解していることが分かります。2歳児でも椅子にしっかりと座り、スプーンを使って料理を自分の口に上手に運んでいました。子どもの中には、食の細い子や好き嫌いのある子もいますが、午前中に体をしっかり動かし、お腹を空かせて食事に向き合える様に保育者も工夫を凝らし、保育活動の内容や生活を考えています。調理担当の職員も、おいしい給食の提供をしたいと日々張り切っています。



2歳児クラス(うさぎ組)

5歳児(ランチルーム)

黒土の遊びは楽しいな



こども園の東側に黒土の山があります。先日年長組の子どもたちが、裸足になって遊びました。「怖いけど楽しい」と言いながら、黒土の山に恐る恐る登りました。その後は、道を作り始めました。「水もってきたよ」「流してー」「いいよ」水が流れると「きゃー」と歓声があがります。水を運ぶ人、道を作る人に分かれて遊びます。隣では、団子作りが始まり、団子に葉っぱの飾りをつけ丁寧に作っている子どもたちもいました。「どうぞしていい」「ぶるんぶるんだ!」「ここを掘って穴を作ろう」など遊びのイメージが次々に湧き、会話も広がっていました。年長児になると友だち同士の会話が増え、遊びのイメージを共有しながら、役割分担をして遊べるようになります。これからまだまだ恵まれた自然環境を活用した子どもたちの遊びは続きそうです。



尚絅学園

平成28年度 提案制度表彰式

平成29年2月22日、「提案制度」の表彰式が行われました。

今回採用された中で、「事務用品等の不要物の再使用」に関する提案では、教職員自らが環境へ配慮した環境共生を実践するとともに、職場環境の美化や整理整頓を目的とした「5R推進運動」の展開と「クリーン・アップデー」を制定しております。今後も事務効率化を進めることで、提案制度の活性化を図っていきます。



新任教職員紹介

- | | |
|--|---|
| ■ 尚絅大学文化言語学部／文化言語学科
金 承珠(講師) | ■ 尚絅高等学校
山下 慶介(講師) 山本 慎太郎(講師) |
| ■ 尚絅大学生活科学部／栄養科学科
小島 志乃ぶ(准教授) 古澤 知里(助手) | ■ 尚絅中学校
渡邊 竜己(講師) |
| ■ 尚絅大学短期大学部／総合生活学科
佐土原 洋平(助教) | ■ 尚絅大学短期大学部附属こども園
大山 和香奈(保育教諭) 亀山 柚果(保育教諭) |
| ■ 尚絅大学短期大学部／食物栄養学科
小椋 繁乃(助手) | 藤井 美咲(保育教諭) |
| ■ 尚絅大学／武蔵ヶ丘キャンパス
甲斐 実織(職員) 倉岡 裕美子(職員) | ■ 尚絅大学／九品寺キャンパス
緒方 将人(職員) 田尻 一成(職員) |
| 小林 まどか(職員) 高木 真喜(職員) | 西山 真由(職員) 兵頭 佐知子(職員) |
| 丸林 瑞那(職員) | 眞崎 愛(職員) 増本 紗希(職員) |
| | 松本 萌々華(職員) 山田 梨咲子(職員) |
| | ■ 尚絅高等学校
平野 李奈(職員) |
| | ■ 尚絅大学短期大学部附属こども園
隈部 穀広(事務長) |

平成29年4月1日現在

「学校法人尚絅学園 行動規範」の制定について

学校法人尚絅学園（以下、「学園」という）は、建学の精神、教育理念のもと、教育機関としての公共性と社会的使命を果たしつつ、学園の持続的な発展を図るため、役員及び教職員が遵守すべき行動の基準・指針として、ここに行動規範を制定しました。

1. 建学の精神、教育理念に基づく人材の育成

学園の女子教育の歴史と伝統のもと、建学の精神、教育理念に基づく特色ある教育・研究を行い、社会に有為な人材の育成に努めます。また、そのための教育及び学習環境を整備し、授業内容や教育課程の改善を行うとともに、学生・生徒・園児への支援・サービスの向上に努めます。

2. 高い倫理観を持った研究活動

学術研究においては、高い倫理観と価値観を保持し、その研究成果を教育に反映させるとともに、研究活動におけるあらゆる不正行為を排し、適正な研究の実施、研究費の使用に努めます。また、創出された知的財産は適正な保護と活用を図る一方、他者の知的財産権を尊重し権利侵害の防止に努めます。

3. 開かれた学園づくりと社会貢献

学園は社会の一員であるとの自覚のもと、地域社会と積極的に連携・交流を図り、開かれた学園づくりと社会貢献に努めます。

4. 法令等の遵守

法令や社会規範を遵守し、公序良俗に反する行為を厳に慎み、社会人としての品位・品格を保ち、良識・良心に従って判断・行動します。また、学園の方針・諸規則等並びに職制に定める所属長・上長の指示命令を誠実に守り、職場秩序の保持に努めます。

5. 人権・人格の尊重

学生・生徒・園児・教職員をはじめとした全ての人権・人格・プライバシーを尊重し、差別、暴力行為、ハラスメント、名誉・信用の毀損、いじめ等の行為を行いません。また、人権・人格等を侵害する行為の防止に努めるとともに、それらの行為があった場合には、学園として厳正に対処し、被害者の救済に適切に対応します。

6. 情報の公開と保護・管理

学生・生徒・園児・保護者・卒業生・教職員はもとより広く社会に対して、経営・教育研究活動等に関する情報を正確かつ適宜・適切に開示し、学園に対する信頼の確保と理解の促進に努めます。一方、学園及び設置校に関する多様な意見・要望や情報提供は真摯に受け止め、説明責任に基づく誠意ある対応を図ります。また、情報の不適切な開示、漏洩、不当利用等の防止のほか、情報の収集・利用・保存・管理に万全を期すとともに、個人情報を含めた守秘すべき情報は、細心の注意を払って保護・管理することに加え、在職中はもとより退職後も流出防止に努めます。

7. 健全な学園環境の構築

教職員はお互いの立場と役割を尊重し一致協力するとともに、透明性、公平性、公正性を確保し、個々の主体性・創造性等の能力が最大限に發揮できるよう、安全で健康的な職場環境を整えることに努めます。また、人命や心身の健康及び学園の持続的な発展を阻害する諸リスクの発生を可能な限り未然に防ぐことに努める一方、リスクが顕在化した場合には、迅速かつ適切に対応します。

8. 自然環境への配慮

現在の地球環境の現状を認識し、自然環境と調和するとともに、積極的に環境保全・資源保護に取組み、限られた地球資源の有効活用と環境への負荷を軽減し、持続可能な社会の実現を推進します。

9. 資産・資金等の適正な管理・運営

学園の資産・資金及び外部資金等は適正に管理・運営し、正当な業務目的のために使用します。また、取引先の選定にあたっては、合理的かつ公正な方法で行い、自己の立場を利用したり、健全な商慣習に反するような不適切な取引は行いません。業務遂行においては、常に公私の別を明確に認識し、個人の利益を求めたり、学園の資産を私的に利用する行為や毀損する行為は行いません。更に、会計に関する法令・基準を遵守し、正しい会計処理を行います。

10. 公正かつ適正な入学者選抜

入学希望者の選抜に当たっては、多様な受験の機会を提供し、公正かつ適正な入学者選抜を行うとともに、関係するあらゆる情報の管理等に細心の注意を払い、厳正な入学者選抜を行います。

11. 自己点検・評価の実施

学園及び設置校の教育・研究をはじめとする諸活動に係る適切な水準維持及び向上に資するため、恒常的に自ら点検・評価を行い、さらに、客觀性及び公正性を担保するために外部評価を経るとともに、この自己点検・評価の結果を学内外に公表し、教育・研究の改善や諸活動の業務改善に努めます。

附 則

この行動規範は、平成29年1月1日から施行する。

【125周年記念育英奨学寄附金】の報告とお願い

本学園の育英奨学金制度の充実を図るために、寄附金募集活動を平成25年5月より行っています。皆様より、ご寄附いただいた寄附金は、現行の制度に加え、更に新設及び改正を行い、経済的理由により修学に困難がありつつも、優れた学生・生徒に対して、これを奨励・支援していくための育英奨学資金として主に活用されます。

ここに、平成28年11月から平成29年5月末までの寄附の応募状況及び、寄附者ご芳名を掲載させて頂きます。多方面のたくさんの方々からご寄附いただきましたことを、心より厚くお礼申し上げます。今後とも、より多くの皆様のご協力ご支援を賜り、学生・生徒のための育英奨学資金の充実を図りたく、よろしくお願い申し上げます。

寄附者芳名録

平成28年11月～平成29年5月末現在

ご寄附をいただきました方々のご協力に感謝し、ご芳名を掲載させていただきます。			
寄附金内訳			
卒業生 1件/¥100,000	個人・法人・企業等 2件/¥6,040,000	現役員・教職員 2件/¥260,000	合計 5件/¥6,400,000
卒業生・現役員・教職員・個人・法人・企業			
尚絅学園 後援会 会長 堀尾 憲彌 様	池満 淵 様		

・寄附者ご芳名の発表は「個人情報の保護に関する法律」に基づき、ご寄附のお申し込みの際にあらかじめ同意された方のみを掲載しています。匿名を希望された方でご芳名発表の変更をご希望の場合は、学園事務局までご連絡ください。なお、申込書の掲載希望欄に印の記入のない場合にはすべてご芳名発表とさせていただきました。

・名簿整理には慎重を期しておりますが、万一、まちがいがありました場合はご連絡ください。

寄附金 (1)個人1口5,000円(何口でも結構ですし、設定金額以外でも有難くお受けいたします。)
(2)法人・団体1口の金額は定めておりません。

※なお、それぞれ税の優遇制度を設けておりますのでご利用いただけます。 ※寄附金募集に関するお問い合わせは、下記までお願ひいたします。
学校法人尚絅学園事務局 経理課(窓口平日9:00～17:00) 〒862-8678 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目6-78
TEL. 096-364-0116(代表) FAX. 096-363-6520 E-mail:keiri@shokei-gakuen.ac.jp

【尚絅高等学校・尚絅中学校】

特待等の種別	採用の目安等	免除・給付	寄附金事業実績
専願特待生	市外・県外に保護者が在住する生徒で、学業・特技に特に優れるもの、経済的理由で就学が困難な生徒が免除対象となります。(入寮が条件)	入学金・教育振興費・授業料相当額・施設費・教育充実費・その他校納金	6名
卒業生家族特待生	母又は祖母が尚絅大・短大・高校の卒業生の生徒が免除対象となります。(特待・特技SS・A・B・C・専願生の重複不可)	入学金	2名
海外留学奨学金	語学研修など海外への短期・長期留学する生徒が給付対象となります。(高等学校のみ)	留学期間別に20,000円～100,000円	4名

【尚絅大学・尚絅大学短期大学部】

特待等の種別	採用の目安等	免除・給付	寄附金事業実績
如蘭学寮 寮費免除	保護者が県外に在住する学生や通学時間に片道1時間以上要する学生であり、学業・特技に優れ、かつ経済的理由等で就学が困難な場合、免除対象となります。	寮費(月額19,000円)・通学定期券代	10名
姉妹入学金減免	①本学に入學する4月時点で本学に在學する者の姉妹(2人目以降の学生、②も同様) ②複数人が同一年度に入学する姉妹	入学金の1/2	4名
海外留学奨学金	語学留学など海外への短期・長期留学する学生が対象となります。(交換留学を含む)	留学期間別に20,000円～100,000円	15名

学校法人尚絅学園 熊本地震復興支援募金について

平成28年4月14日、16日以降に発生した一連の地震により、多くの皆様にご心配をいただき、お見舞と激励のお言葉並びにご支援のお申し出をいただいております。あらためて心より御礼申し上げます。

熊本地震で被災した本学園の学生・生徒・園児への就学支援や、校舎等の修復といった教育・研究環境の原状回復等を目的として立ち上げました『学校法人尚絅学園 熊本地震復興支援募金』に対し、数多くの皆さまから温かいご支援を賜りました。平成29年5月末日までにお寄せいただきました支援募金につきましてご報告します。

なお、今後も就学支援や復興活動費用として継続して活用させていただきたく、引き続きご支援をお願い申し上げます。

○支援募金総額……18,788,904円(46件)(平成29年5月末日現在)

いただいた寄附金の用途等につきましては、改めて尚絅学園のホームページでご報告させていただきます。

〈問合せ先〉学校法人尚絅学園 学園事務局総務部経理課(平日9:00～17:00)

〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78 TEL.096-364-0116 FAX.096-363-6520 E-mail:keiri@shokei-gakuen.ac.jp

学校法人尚絅学園 平成28年度決算と事業報告の概要

1. 決算の概要

学校法人尚絅学園の平成28年度決算は、平成29年5月29日開催の理事会において承認・議決され、同日開催の評議員会に報告されました。また、監事及び監査法人の承認を得ております。以下、その内容についてご説明いたします。

(1) 資金収支計算書 資金収支計算書は、当該年度の教育研究活動に対応するすべての資金の収入及び支出の内容を明らかにして、支払資金の収入及び支出の顛末を明らかにしています。

資金収支決算書要約 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで (単位:百万円)

資金収入の部	平成28年度	前年度	増 減	資金支出の部	平成28年度	前年度	増 減
学生生徒納付金収入	1,482	1,504	△ 22	人件費支出	1,462	1,408	54
手数料収入	23	26	△ 3	教育研究経費支出	450	344	106
寄付金収入	35	8	27	管理経費支出	202	109	93
補助金収入	770	532	238	借入金等利息支出	1	1	0
資産運用収入	1	2	△ 1	借入金等返済支出	14	14	0
資産売却収入	144	0	144	施設関係支出	12	293	△ 281
事業収入	2	3	△ 1	設備関係支出	32	51	△ 19
雑収入	61	82	△ 21	資産運用支出	162	57	105
前受金収入	431	464	△ 33	その他の支出	78	55	23
その他の収入	153	73	80	資金支出調整勘定	△ 138	△ 60	△ 78
資金収入調整勘定	△ 575	△ 538	△ 37	支出の部小計	2,275	2,272	3
前年度繰越支払資金	773	890	△ 117	次年度繰越支払資金	1,027	773	254
収入の部合計	3,302	3,045	257	支出の部合計	3,302	3,045	257

資金収支計算書の収入の部において、学生生徒納付金収入は1,482百万円となり、前年度比22百万円減少しました。また、補助金収入として770百万円を計上し、前年度比238百万円増加しました。これは熊本地震災害復旧補助金106百万円、幼保連携型認定こども園への移行による施設型給付費収入100百万円の計上等に依るもので、また、寄付金収入は35百万円を計上し、前年度比27百万円増加しました。

支出の部では、人件費支出が1,462百万円となり、前年度比54百万円増加しました。教育研究経費支出は450百万円で前年度比106百万円増加、管理経費支出は202百万円で前年度比93百万円増加しました。これはともに熊本地震災害復旧費支出113百万円および86百万円を計上したことによるものです。その他、資産運用支出は162百万円となり、前年度比105百万円増加しました。以上の結果により、次年度繰越金は1,027百万円となり前年度比254百万円増加しました。

(2) 事業活動収支計算書 事業活動収支計算書は、当該年度の事業活動収入と事業活動支出の内容、収支状況を明らかにして、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示しています。

事業活動収支計算書要約 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで (単位:百万円)

事業活動収入の部	平成28年度	事業活動支出の部	平成28年度
(教育活動収入計)	(2,382)	(教育活動支出計)	(3,231)
学生生徒等納付金	1,482	人件費	1,434
手数料	23	教育研究経費	1,528
寄附金	35	[内奨学費]	(101)
経常費等補助金	770	[内減価償却額]	(374)
付随事業収入	2	管理経費	269
雑収入	69	[内減価償却額]	(22)
(教育活動外収入計)	(1)	(教育活動外支出計)	(1)
受取利息・配当金	1	借入金等利息	1
(特別収入計)	(3)	(特別支出計)	(0)
現物寄付	3	資産処分差額	0
事業活動収入計	2,386	事業活動支出計	3,232
		基本金組入前当年度収支差額	△ 845
		基本金組入額	△ 25
		当年度収支差額	△ 870

事業活動収支計算書の収入の部、支出の部は資金収支計算書の収入の部、支出の部と同様の項目が多く含まれていますが、平成28年度の事業活動収支計算書における特徴的なものは、災害損失引当金繰入を735百万円計上した点です。この結果、教育活動収支差額は△849百万円となり、前年度比754百万円減少しました。同様に基本金組入前当年度収支差額は△845百万円となり、前年度比758百万円減少しました。

(3) 貸借対照表 貸借対照表は、一定時点(決算日)における資産、負債、基本金の内容と在高を明示して学校法人の財政状況を明らかにしています。

貸借対照表 平成29年3月31日

資産の部	(単位:百万円)			負債の部	(単位:百万円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	9,956	10,216	△ 260	固定負債	403	456	△ 54
有形固定資産	8,422	8,781	△ 358	長期借入金	0	14	△ 14
土地	1,023	1,023	0	退職給与引当金	402	438	△ 36
建物	5,838	6,130	△ 291	長期未払金	1	4	△ 3
構築物	331	360	△ 29	流動負債	1,355	589	766
教育研究用機器備品	312	358	△ 45	短期借入金	14	14	0
その他の機器備品	33	39	△ 6	未払金	141	68	73
図書	884	871	13	前受金	431	464	△ 33
車両	0	0	0	預り金	33	43	△ 10
その他の固定資産	1,533	1,435	98	災害損失引当金	736	0	736
有価証券	20	20	0	負債の部合計	1,757	1,046	712
退職給与引当特定資産	550	550	0	純資産の部			
減価償却引当特定資産	100	100	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減
施設設備引当特定資産	676	576	100	第1号基本金	13,484	13,462	22
第3号基本金引当特定資産	176	175	0	第3号基本金	176	175	0
奨学寄附金引当特定資産	6	4	2	第4号基本金	148	148	0
その他	6	10	△ 4	基本金の部合計	13,808	13,786	22
流動資産	1,157	1,031	127	翌年度繰越収支差額	△ 4,453	△ 3,585	△ 868
現金預金	1,027	773	253	繰越収支差額の部合計	△ 4,453	△ 3,585	△ 868
未収入金	112	71	41	純資産の部合計	9,355	10,201	△ 845
有価証券	0	144	△ 144	負債及び純資産の部合計			
仮払金他	19	42	△ 23	科 目	本年度末	前年度末	増 減
資産の部合計	11,113	11,246	△ 133	負債及び純資産の部合計	11,113	11,246	△ 133

平成28年度末における固定資産(土地・建物・機器備品・特定資産他)と流動資産(現金預金・未収入金他)を合わせた資産の部合計は11,113百万円で、建物や教育研究用機器備品の償却が進んだことにより、前年度末と比べて133百万円減少しました。

一方、長期借入金等の固定負債と短期借入金及び未払金等の流動負債の合計額は1,757百万円となり、前年度末と比べて712百万円増加しました。これは流動負債に災害損失引当金として736百万円を計上したことに依るもので、

平成24年度から平成26年度まで「消費収支の推移」 (単位:百万円)

収入の部	平成24年度	平成25年度	平成26年度
学生生徒等納付金	1,483	1,505	1,546
補助金	557	574	544
手数料	29	31	26
寄付金	26	32	18
事業収入他	173	154	67
帰属収入合計	2,268	2,295	2,201
基本金組入額合計	△ 1,456	△ 405	△ 134
消費収入の部合計	812	1,890	2,067
支出の部	平成24年度	平成25年度	平成26年度
人件費	1,406	1,406	1,354
教育研究経費	798	664	704
管理経費	151	149	137
借入金等利息	5	3	2
資産処分差額他	33	0	2
消費支出の部合計	2,393	2,223	2,199
当年度消費支出超過額	1,582	332	132

平成27年度から「事業活動収支の推移」 (単位:百万円)

収入の部	平成27年度	平成28年度
学生生徒等納付金	1,504	1,482
経常費等補助金	532	770
手数料	26	23
寄付金	15	35
付随事業収入+雑収入	94	72
事業活動収入計	2,173	2,386
基本金組入額合計	△ 315	△ 25
支出の部	平成27年度	平成28年度
人件費	1,397	1,434
教育研究経費	717	1,528
管理経費	145	269
教育活動外支出	1	1
特別支出	0	0
事業活動支出計	2,260	3,232

2. 事業報告の概要

学校法人 尚絅学園

(1) 収支の安定的な黒字化

- ①各学校・学部・学科ごとに学生(生徒)募集状況の分析を実施。②入学定員確保に向け効果的な募集活動方策を検討。
- ③収入の多様性を図るため、寄附金募集活動や科研費等外部資金獲得に注力。

(2) 人事制度の改革

- ①人事評価制度フィードバックの定着を図り、能力開発や意欲の創出に注力。
- ②計画的な教職員採用と適材適所の配属及び互換性向上を意識した配置転換を実施。

(3) 組織・運営基盤の改革

- ①全学グランドデザイン、行動規範の制定と長期ビジョンと中長期行動計画の第2回改定。
- ②内部監査室を設置し、三様監査体制を確立。③Webページをスマートフォンでの閲覧に対応したホームページにリニューアル。
- ④自己点検評価・学校評価の実施と現状把握。⑤同窓会・後援会・保護者会と学校・法人の連携を強化。

(4) 学修(習)環境の整備

- ①平成28年熊本地震による被害について、安心・安全な学習環境の設備の観点から、早期の建物復旧工事に着手。
- ②中高スクールバス導入に向けた運行経路等の検討。

尚絅大学・尚絅大学短期大学部

(1) 学生支援

- ①奨学金制度・表彰制度について検討を継続。②学生生活の心身面の悩みについての実態把握と支援の強化。

(2) 就職支援

- ①専門の外部講師の招聘や、キャリアカウンセラーによる個人面談の実施。②就職・進路支援センター設置について検討。

(3) 国際交流

- ①慈済大学(台湾)、仁徳大学校(韓国)との交流協定書を短期大学部を含めて再締結。②他大学との更なる交流推進・提携を検討。

(4) 教育・研究の充実

- ①授業改善アンケート設問項目の見直しの実施及び授業改善アンケート対象科目の拡大を検討。
- ②基礎学力不足学生の実態把握と習熟度別授業強化のため、学修支援センターの設置を検討。
- ③尚絅子育て研究センターのCOC+において各地域の保育関係者及び行政関係者向けの報告会、講演会を開催。

(5) 入試広報対策

- ①熊本県内高校との連携を強化する目的で、高校訪問・出前授業・学校説明会等を積極的に実施。

(6) 地域社会との連携

- ①熊本市と包括連携協定を締結。②大津町観光協会、菊陽町商工会等の様々な活動に参加。
- ③尚絅公開講座(第27回)、文化言語学部公開講座(第10回)、尚絅子育て研究センター公開シンポジウム(第16回)等を開催。

尚絅中学校・高等学校

(1) 生徒支援

- ①進路指導の充実の為、進路相談及び情報提供を強化。
- ②奨学生制度・表彰制度を積極的に活用し、安心して学修に取組む環境整備に注力。
- ③外部専門医と協力し、震災後の生徒の心のケアについて教職員向けの研修を実施。

(2) 人間教育プログラムの充実

- ①外部組織・外部人材の積極的な活用による各種講話・研修会の実施。
- ②礼法教育推進として全生徒のマナー検定上級の合格を目指とした取組みの実施。

(3) 国際交流の推進

- ①平成28年8月に韓国鶴城女子中学校と姉妹校締結。②中学校・高校の海外修学旅行(シンガポール)実施。
- ③継続して留学生を受け入れ、生徒の国際交流環境を推進。④中学3年生で英検3級以上を100%取得。

尚絅大学短期大学部附属こども園

(1) 特色あるこども園づくり

- ①自然環境を生かした体験活動(椎茸の菌打ち、木登り、夜の森探検)・異年齢交流・安全教育等を実施。
- ②食育教育として、食材の栽培・収穫・調理体験を行い、栄養士の講話・食事マナーを実施。
- ③保護者も参加した発達相談会を行い、個別の支援計画を作成のうえ支援を実施。

(2) 子育て支援

- ①保護者向け講演会を行い、「おしゃべり広場・保護者の保育体験」を毎月開催。

(3) 地域連携活動

- ①中高生(武蔵ヶ丘中・西原中・尚絅高校)による職場体験の実施。
- ②小学校の授業参観や情報交換会、小学校教諭との個別情報交換会の実施。

平成29年度 学校法人尚絅学園事業計画(概要)

I. はじめに

尚絅学園は平成25年度に学園の将来計画である「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」をスタートさせ、その後、学園を取り巻く環境変化や、計画の進捗状況を勘案し、平成27年度に第1回目の改定として計画の一部見直しを実施しました。しかし、社会環境の変化や学園を取り巻く環境変化は急速に進む一方、平成28年4月の熊本地震の影響もあり、中長期行動計画を再度見直し、平成29年度より取組むこととしました。

今回の見直しは、今後の学園並びに各設置校の教育・研究及び管理・運営の指針として制定した「尚絅学園全学グランドデザイン」のもと、中長期行動計画の位置付けを明確にした上で、中長期行動計画と単年度事業計画の関連性を一層強固にし、「建学の精神」「教育理念」の実現を目指してまいります。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

本学園が教育研究機関として社会の要請に応え、学生生徒が充実した快適な学校生活を実現するためには財政基盤の確立が不可欠であるとともに、組織・運営態勢の改革、人事・人材改革、環境整備改革を不断なく続けていくことが必要です。

- 組織・運営態勢改革においては、規律と誠実性を維持しつつ、急速に変化する環境変化に迅速に対応すべく、今以上にガバナンス機能・組織マネジメントを強化し、組織力を結集してまいります。
- 財政改革においては、少子化等の影響による学生・生徒の確保が一層厳しさを増すなど、収支バランスの不安定化が予測される中、安定した財政基盤の確保と収支バランスの確保に努めます。
- 人事・人材改革においては、学園・学校に有為かつ適正な人員を確保するとともに、教職員一人ひとりの資質・能力の向上に努めます。
- 環境整備改革においては、今回の熊本地震での教訓を活かしつつ、教育研究活動充実のための施設設備計画を確立し、環境整備を進めることに加えIT環境の整備・構築に努めます。

2. 尚絅大学・尚絅大学短期大学部

大学・短期大学部は、新たに制定された全学グランドデザイン及び改定された「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」に基づいて事業計画を策定し、教育・研究・学生支援・社会連携等の活動に取り組みます。

- 教育面においては、社会的ニーズの調査・分析に基づき、カリキュラムの整備、教育体制・教育方法の改善を進め、意欲的な学生の増加に努めるとともに、リメディアル教育を実施し、学修成果の計測と向上方策に基づき質の高い教育を実施します。特に現代文化学部の設置に向けた準備を進め、入学者確保を図ります。
- 研究面においては、研究倫理の定着と、研究環境の整備を進め、外部資金等の獲得による、教員の研究活動を活性化して、研究成果の向上を図ります。
- 学生支援においては、経済的・精神的に課題を抱えた学生及び障がいをもつ学生に対してきめ細やかなケアと支援を行い、学生の休学・退学の減少に努め、サークル活動等への支援と適切な指導を行い、快適な学園生活環境を作ります。
- 社会連携においては、研究センターのいっそうの活性化を図り、産学官との連携を強め、教育研究成果の向上と成果の発信に努めます。
- IR機能の強化を進めるとともに、自己点検評価を適切に行い、報告書を作成して認証評価機関による評価を受け、PDCAサイクルの確立に努めます。さらに、教職員のスキルアップを図るためのSDの義務化を推進します。

3. 尚絅中学・高等学校

平成29年度は中長期行動計画の折り返し点であることを踏まえ、これまで4年間の取り組みを総括し、さらなる事業内容の充実と実施効果の向上に取り組みます。

- 教育内容の充実と尚絅らしさの追求については、「建学の精神」「教育理念」を全教職員及び全校生徒に徹底し、人間教育の一層の充実を図ると共に、学力向上及び進路指導の取り組みを強化して進路結果の向上に努めます。また、国際交流の推進においては、28年8月に韓国蔚山市立鶴城女子中学校との姉妹校を締結したのを機に、同校との交流を推進すると共に、新たな姉妹校提携に向けての取り組みを行います。
- 生徒支援の充実については、これまでの事業に継続して取り組むと共に、手薄であったドーミー入所生徒のケアに取り組みます。
- 学習意欲あふれる生徒の確保については、広報部を中心とした全職員による広報活動を継続して推進し、特待生制度を活用した学業・特技に秀でた生徒の確保に努めます。また、昨年度から取り組んだ学習塾との連携を一層強化するための取り組みに努めるほか、これまでに実施してきた天草での出張入試に加えて、人吉地区での出張入試を行い受験者の掘り起こしに努めます。
- 指導力の向上につきましては、年間計画に則り研修の目的を明確にした研修内容の精選による各種職員研修に取り組み指導力の向上に努めます。
- 地域貢献の推進では、本校主催の各種大会や部活動の合同練習会等に従来通りに取り組む一方、熊本地震の影響による各種大会の開催会場不足を補うために小・中・高体連等の公式戦会場及び学習塾の模擬試験会場として本校での開催を積極的に誘致して、地域貢献及び広報活動の一助としたいと思います。

4. 尚絅大学短期大学部附属こども園

こども園に移行して1年が経過し、現状の把握と見えてきた課題の整理を行なながら、引き続き、特色ある園づくりを行います。

- 第一に、本園の特徴である自然環境を活かした教育及び保育を実施するための環境の整備と施設設備の充実、乳児保育や絵本教育等教育及び保育内容の充実を図ります。また、給食の実施による食への関心の高まりをもとに、魅力ある食育活動を推進してまいります。
- 第二に、一時預かり保育や延長保育、特別支援教育等保護者に寄り添った子育て支援を実施するとともに、引き続きバスコース、バス停の見直しをおこない、在園児の保護者支援に努めます。また、地域の子育て中の保護者に対しては、子育て支援室の活動内容の充実を図り、保育体験の実施や大学短期大学部、子育て研究センター、こども園職員による講演会や講習会の実施や相談機能の充実、強化に取り組みます。
- 第三に、少子化が進む中、本園への入園希望者を確保するために、Webページの充実を図り、説明会とは別に見学会の定期的な開催を実施し、積極的な広報活動を行います。また、子育て支援室利用保護者が本園教育及び保育の内容を理解し、就園へつながるために職員一人一人が保護者への広報担当としての責任を果たすようにしてまいります。
- 最後に、職員の教育及び保育の指導力向上のために、園内外の研修に積極的に参加することや短期大学部教員とのテーマ別研究、子育て研究センター、食育研究センター等との協力、連携を積極的に行うとともに、地域連携活動にも注力してまいります。

尚絅大学 尚絅大学短期大学部

尚絅祭 Connecting People!

11/18(土)・19(日) 10:00～

11月19日(日) 進学相談会同時開催

- 内容／●クラスバザー ●研究発表
 ●カラオケコンテスト ●ミスコンテスト
 ●ファッショショナー ●ゲストライブなど



第5回ホームカミングデイ《尚絅祭と同時開催》



11/19(日) 10:00～15:00

(受付9:00～ 九品寺・武蔵ヶ丘キャンパス正門)

尚絅大学・尚絅大学短期大学部卒業生の皆さん、
久しぶりに母校を訪れてみませんか？

- 内容／●講演会 ●交流会 ●お茶会
 ●同窓会カフェ ●展示など

尚絅中学校 尚絅高等学校

文化祭

7/16(日) 10:00～14:00



同時開催 ホームカミングデイ

- 内容／●作品展示 ●等身大パネル写真撮影
 ●手作り作品販売 ●喫茶コーナーなど

記念同窓会 卒業10年(H20.3卒)11:00～
卒業20年(H10.3卒)13:00～講師／姜 尚中 氏 (東京大学名誉教授/
熊本県立劇場館長兼理事長)

演題／「懐かしい未来の熊本」

開場／14:00 開演：14:30

会場／尚絅大学1号館 10階ホール

■入場料は無料（事前申し込みが必要です）

<お問い合わせ先> 尚絅学園花桜会 TEL.096-372-3400

体育祭

9/22(金) 8:30～

場所:パークドーム熊本



<第20回>尚絅コンサート

11/11(土) 13:30～ 入場無料

場所:熊本県立劇場

生徒・保護者・同窓生によるコンサートです。



尚絅大学 尚絅大学短期大学部

平成29年度 尚絅公開講座のお知らせ

メインテーマ『人間探求～暮らしを見つめ直す～』

平成29年8月28日(月)～9月1日(金)開催予定

詳細決まり次第ホームページでお知らせします。

平成30年度 入試日程のお知らせ

※詳しくは募集要項またはWEBでご確認ください。<お問い合わせ先> 尚絅大学・尚絅大学短期大学部入試センター ☎096-273-6300

尚絅大学

【現代文化学部
文化コミュニケーション学科】
募集人員／75名

入試区分	エントリー期間	授業体験・面談	結果連絡	出願期間	合格通知発送	入学手続期限
AO入試 (第1回)	平成29年 7月 1日(土) ～ 7月21日(金)	7月29日(土)	7月31日(月)	平成29年 8月 1日(火) ～ 8月21日(月)	8月28日(月)	9月 8日(金)
AO入試 (第2回)	平成29年 9月 4日(月) ～ 9月22日(金)	9月30日(土)	10月 6日(金)	平成29年10月10日(火) ～10月20日(金)	10月25日(水)	11月10日(金)

入試区分

出願期間

選考日

合格発表

入学手続期限

推薦入試(指定校、一般、併設校)
社会人、外国人留学生入試

平成29年11月 1日(水)～11月 7日(火)

11月11日(土)

11月20日(月)

12月 1日(金)

尚絅大学

【生活科学部栄養科学科】
募集人員／70名
編入学定員／10名

入試区分

出願期間

選考日

合格発表

入学手續期限

推薦入試(一般、併設校)、社会人入試

平成29年11月 1日(水)～11月 7日(火)

11月11日(土)

11月20日(月)

12月 1日(金)

編入学試験(3年次)

平成29年11月20日(月)～11月30日(木)

12月 2日(土)

12月11日(月)

12月25日(月)

尚絅大学短期大学部

募集人員／310名
【総合生活学科】／80名
【食物栄養学科】／80名
【幼稚教育学科】／150名※短期大学部のAO入試は
【総合生活学科】のみ実施
いたします。

入試区分

出願期間

選考日

合格発表

入学手續期限

AO入試
(第1回)平成29年 7月 1日(土)
～ 7月21日(金)

7月29日(土)

7月31日(月)

平成29年 8月 1日(火)
～ 8月21日(月)

8月28日(月)

9月 8日(金)

AO入試
(第2回)平成29年 9月 4日(月)
～ 9月22日(金)

9月30日(土)

10月 6日(金)

平成29年10月10日(火)
～10月20日(金)

10月25日(水)

11月10日(金)

AO入試
(第3回)平成29年11月 6日(月)
～11月24日(金)

12月 2日(土)

12月 8日(金)

平成29年12月11日(月)
～12月19日(火)

12月25日(月)

1月 5日(金)

※上記以外の入試につきましては、次号でお知らせいたします。 ※選考は全ての入試区分において九品寺キャンパスにて実施します。

尚絅高等学校

入試説明会 11月11日(土) 10:00～

当日参加可能



尚絅中学校

学校説明会 9月30日(土) 10:00～

当日参加可能

入試説明会 11月11日(土)、12月9日(土) 10:00～

当日参加可能